

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	ファミリア小坂		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716-1		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は廻りを自然に囲まれ、施設内畑で収穫できる四季折々の野菜なども豊富にあり、利用者様にも以前と変わりなく過ごして頂くことができます。また国道41号線沿と利便性にも優れています。職員は法人の理念を理解し、意識をもって日々の介護支援をしています。災害時には一時避難場所に指定されており、避難場所として地域の皆さまにも使用していただけるよう対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は飛騨川沿いに北上する国道沿いに位置しており、自然豊かな風景に囲まれている。建物2階に2ユニットが一直線の動線で繋がっており、利用者は自由に行き来ができる。管理者は、職員の持つ特技、柔軟な発想力や能力を活かしながら、利用者の日々の生活に潤いを与えられるよう、様々な工夫を凝らし、ホーム全体で支援に取り組んでいる。毎月発行の広報誌「おたっしや倶楽部」には、利用者一人ひとりの日常の表情を上手く捉えたスナップ写真を掲載し、メッセージも添えて、家族の安心感につながら信頼を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【地域に根ざす優しさ安らぎ信頼】という法人の理念を職員の名札・玄関等に明記し常に意識し、また共有して介護サービスの提供に努めている	理念は玄関に掲示している。職員の名札にも赤字で明記し、常に意識しながらケアに当たっている。家族アンケートに「丁寧な対応」「温かく寄り添ってくれて」という感想もあり、理念の実践で家族の信頼を得られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の役員の方は運営推進会議のメンバーとして会議に毎回参加していただき毎月広報誌を区に回覧していただき施設の様子を伝えている 地域の行事等も参加させていただき交流している 区費も収め区民として防災訓練にも参加している	運営推進会議には区長・民生委員など地元住民の参加が多い。職員は地域の防災訓練に参加したり、祭礼では事業所の玄関先に獅子舞が訪れている。祝儀を手渡す利用者もある。敬老の日には老人会から記念品が届き、地域の一員としての自覚を持つことができる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに会議を開催し行政職員、区長、民生委員、福祉委員、利用者、ご家族の方に参加していただき入居状況、ヒヤリ・事故案件など報告し意見を頂き運営に活かしている	運営推進会議には、行政職員、2か所の区長、民生委員、利用者代表、家族等の参加を得て、活動状況やヒヤリハットなどを報告している。面会についての家族の要望など議事録に明記し、家族や行政に配布している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課・地域包括支援センターの方には報告。相談させていただいている 運営推進会議にも毎回参加していただいている 措置入所などの依頼、対応もさせて頂いている	運営推進会議が土日開催でも、市担当者の出席がある。困り事があれば、市や地域包括支援センター担当者に電話やメールで相談している。経済的虐待の件で、行政の対応、支援を受けた事例もある。市主催の事業者協議会からの情報も得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は年2回身体拘束の研修を受け弊害を理解し拘束しない努力・工夫をして拘束等が必要な場合は、毎月経過観察、再検討し見直しをしている また3か月ごとに適正化委員会を開催している 委員会も設置している	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し議事録を整備している。管理者は日常業務の中で、スピーチロックを把握した際には、その場で注意している。職員は、アンガーマネジメント研修を受講してストレスの解消法を学び、管理者は、いつでも、職員の相談に乗るよう努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は年2回虐待防止研修を受け、どのような行為が虐待に当たるかを学び、ケアの上での注意点、声掛けの仕方など気を付けている 管理者に相談・報告できるようにしている	運営規定には虐待防止に関する事項を設け、委員会も定期開催し、虐待防止及び早期発見の為に取り組んでいる。職員から、目標を定め、もう一歩踏み込んだ話し合いがしたいと要望が出るなど、前向きな姿勢で一丸となって取り組んでいる。	職員から、虐待に繋がる不適切ケアについて、さらに話し合いながら理解を深めたいと要望が出ている。高齢者虐待の定義について学び、虐待防止委員会議事録と指針の整備にも期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政に相談し措置入所対応や成年後見人を付けていただく対応をした		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に施設の方針・内容・費用等を説明し理解・納得された上で契約を交わしている 質問・不安があればその都度、話を聞き対応している		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進委員会で出た家族の意見・要望等は議事録として毎回資料を全員に送付し、グループホーム専用の携帯電話に要望など頂いた場合、管理者にも報告している	家族の意見や質問は、専用携帯番号で受けられる体制がある。毎月発行している「おたっしや倶楽部」では、コメント付きの利用者の写真を紹介し、家族に喜ばれている。また、災害時には手伝いたいと家族からの申し入れもある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事評価制度を活用し職員の意見や提案を聞く機会を設けている 管理者は常時職員の意見を傾聴し改善するように努めている パート職員に関しても勤務時間の変更など要望に応じれるようにしている	2か月に1回、管理者が本部会議に出席し、職員の意見や要望を伝えている。ヒヤリハット報告も記述式からチェック方式に変更し、改善した事例がある。予算化が必要な要望等は、法人の対応となっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事評価制度を活用し職員が努力したこと、目標ややりがい把握し、向上心を持ち働けるよう努めている 予定に合わせ勤務調整している	人事評価制度を導入しており、職員個々の目標と勤務実績等を参考に評価している。主任が面談を行い、昇給に繋げるなど、職員のモチベーションアップを図っている。有給休暇や希望シフトの配慮、休憩時間も適切に確保している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に対しては利用者個々の対応のファイルを作成し日々の対応を指導している 毎月研修を行いレポート提出により学習成果・理解度を確認している 法人外の研修には勤務調整など参加しやすい環境を整備するよう努めている	法人の内部研修において、介護福祉士2名と傾聴スペシャリスト1名が合格し資格を取得している。研修費用の貸与制度や資格手当もある。前回の取り組み目標であった「個々の研修の学びを実践で活かす」は、研修内容を職員会議で発表し、意見交換することで、本人の力量アップと他の職員人材育成にも繋がっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は出来ていないが、法人内の会議でサービスの向上につなげている 行政主宰の公演会・研修会に参加している Web会議・研修に参加し交流できている 管理者は市の事業所懇談会・集団指導に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、食器洗い、洗濯など楽しんで一緒に 行い良い関係を築き、共同生活をしていること を感じて頂けるよう努めている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や様子などで、希望や思いを把握しより良いケアに繋げ、柔軟な姿勢で希望に添える様検討している	利用者の様子や会話から思いを把握し、個人記録や業務日誌に記載し、職員間で情報を共有している。意思伝達が難しい利用者の場合は、動作や様子を丁寧に把握し、スプーンから箸、歯ブラシも使えるようになった事例がある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催前に家族・本人様の意向・要望をお聞きし、課題やケアの方向性を見定めより良い支援ができるように介護計画を作成している 今年度は3名のご家族が参加くださり本人様と共に意見を頂くことができた	プラン見直し時に、家族の参加を打診した際には、遠方の家族も含めて、多くの参加を得ることが出来ている。家族が介護計画作成時に参加することで、利用者の実情や支援についての理解が、本人本位の介護計画作りに繋がっている。	担当者会議に家族の参加を得ることで、事業所の支援についての理解が得られている。今後も、家族への参加呼びかけを継続し、チームで作る介護計画作りに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には様子・発言・行動などを記録し、職員間で周知・共有した上でケアの見直しや実践ができる様に努めている	個別記録や業務日誌には、職員の気づきも記録している。利用者情報を職員間で共有し、対応を話し合いながら、見直しに活かしている。職員の小さな気づきから、更に支援方法を工夫し、介護度が下がった利用者もある。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況・ニーズにより受診付き添いなども対応しており柔軟な支援ができるよう取り組んでいる また歯科と連携し口腔ケア、フレイル予防に努めている	協力医以外への受診は家族対応となっているが、都合がつかない時は、有料で職員が付き添い支援をしている。日常生活を楽しく送れるよう、買い物や脳トレ的なレクリエーションを取り入れている。今年は、さらにレクリエーション活動の充実をめざし、移動パン屋の利用を検討している。	

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容室・美容室の方に訪問して整髪していただいている 地元の福祉委員の訪問もあり老人会の冊子・記念品なども頂くこともある		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援でかかりつけ医を定期的に受診し指導していただいている 急変時に対しては必要な医療が受けられるよう連携している 家族が対応できない場合は有料で送迎・付き添いをしており 契約者のみ訪問診療は月2回、訪問歯科毎週 衛生士は週2回定期的に入っている	契約時に、家族・本人の希望でかかりつけ医を選択できることを説明している。現在、半分以上の利用者が協力医を選択し、月2回の往診を受けている。また、希望者は訪問歯科や歯科衛生士の訪問を受けることができる。外部医療機関への受診は事業所から情報を提供している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には介護・看護サマリで情報交換している 入院中の様子・情報で対応の変更など検討している また必要な時は退院前の訪問もしている	退院カンファレンスには主任、看護師、担当職員が参加し、早期退院ができるよう支援している。退院後の受け入れは、主治医の指示書を受け、マッサージやリハビリができるようにするなど、ホームでの暮らしの継続を支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない 入居時に【重症化した場合の指針】の説明し同意を得ている 重度化・終末期に対する意向を確認し、特養入居の希望などを含め入院など本人・家族の望まれる支援をしている	重度化や終末期に向けた事業所の方針を入居時に説明し、本人・家族の同意を得ている。看取り支援は行っていないため、介護度3以上になると、特養や医療機関等の情報を家族に提供している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により救急時の対応を学んでいる 転倒・発熱・嘔吐などそれぞれのマニュアルを作成して定期的に訓練を行っている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員に来ていただき火災訓練で消火避難誘導を学び指導していただいている 消火設備点検、消防立ち入り検査も定期的に受けている BCPは資料を配布し役割の確認をし研修もした 地域の避難場所になっており備蓄品の確保をしている	火災訓練を年2回実施し、救急救命講習を1回受けている。BCPを整備し、職員研修を行いながら役割分担表を事務所に掲示し、個々の役割を遂行できるよう指導している。地域の避難場所にもなっており、災害備蓄品はストックしている。2階からの安全な避難方法について話し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替え・排泄・入浴などプライバシーを損ねない対応や声掛けを心がけている ドアやカーテンの開閉時・排泄の声掛けをするときには特に注意し配慮している 個室の名札は名前のみ表記している	脱衣場にはパーテーションを設置している。排泄支援時の声掛けも、羞恥心に配慮するよう心がけている。名字が同じ利用者が多いため、居室の名札は下の名前のみを表記し、声掛けも名前で呼んでいる。接遇研修は全職員受講済みである。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いに添えるよう支援・対応している 希望があれば可・不可に関わらず職員で共有し支援できるように努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、寄り添う支援を心がけている どのように過ごしたいか、何をしたいかをお聞きし、希望に添える支援をしている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分のペースで食事をされている 毎食のテーブル拭き・湯飲み洗い等はなるべく多くの方にお手伝いしていただいている 味噌汁作りは週2回材料切から味見迄、できる範囲で参加していただいている おやつ作りも楽しんで参加される	ご飯と味噌汁以外は湯煎食を利用している。利用者家族から提供された味噌を使い、利用者は、味見や出来る範囲の手伝い等に関わっている。おはぎ作りなども一緒に行っていたが、コロナ禍で中止となり、現在は、焼き芋作りを楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や食事・水分摂取量を確認しながら各個人の状態を把握しバランスよく栄養摂取できるよう支援している 個人記録・バイタル表に食事・水分摂取量を記録し状態を確認している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は声掛けし口腔内を清潔に保てるよう支援している 定期的に歯科衛生士の指導を受け義歯の洗浄に気を付けている 歯磨きなど自分でできる事はして頂き声掛け・補助している	1日4回の口腔ケアを行っている。希望者は歯科衛生士の指導を受けている。歯科衛生士のアドバイスは計画書に貼り、利用者個々の口腔内ケアの清潔保持に努めている。夜間の義歯管理は、事務所でを行い、消毒して保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄パターンを記録で確認し、必要に応じて、声掛け・誘導・介助している 無理強いせずトイレでの排泄を促し自立に向けた支援に努めている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが体調や気分により別の日に入浴していただくなど柔軟な対応をしている 湯温・時間等介助の職員が希望を伺い、好みに合わせた支援をしている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠傾向の方には居室・ソファで休んでいただくよう声掛け・支援している 介助の必要な方は必要に応じ対応している レクリエーション・脳トレ・作業など適度な心身の運動で夜間の良眠を促している		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は、声出しで名前を確認し見守りを徹底し飲み込みまで確認 落薬・誤薬防止に努めている 症状により医療職に相談し指示を受けている 夜間眠前薬使用でふらつきなどある場合にはセンサーを使用し事故防止に努めている	薬は看護師がチェックして管理している。服薬支援時には声に出して確認し、飲み込みまでを見届けている。錠剤が呑み込めない人には医師と相談し粉碎したり、薬の数が多い時はカップで支援し、落薬防止をしている。処方変更による利用者の体調変化は症状を記録し、主治医に伝えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業を希望される方には、洗濯干しや洗濯たたみ、湯飲み洗い、モップ掛けなど安全に配慮して頂いている 趣味のレース編みや折り紙など熱心に作られる方もいる	レース編みでベッドカバーを作る人やみそ汁の具材にできるよう畑作業を楽しむ人、掃除が好きな人には床掃除を依頼している。利用者の趣味を最大限活かせるよう支援し、日々張り合いある生活につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・紅葉の季節のドライブを楽しんで頂いている 施設周辺の散歩をし外気浴や畑などを見ていただいている 祭りの時期には獅子舞が施設訪問してくださる 家族支援で病院受診や外出をして家族とのひと時を楽しんで頂いている	コロナ禍で低下した下肢筋力強化のために、階段や廊下を利用しながら、生活リハビリに取り組んでいる。天気の良い日はベランダで日光浴を兼ねて歩行訓練を行なっている。受診の送迎時に家族との外出を楽しみ、一時外泊も徐々に許可できるようになっている。	利用者の安全な外出支援を行うためにも、低下してしまった下肢筋力を、少しでも向上できるよう、リハビリを兼ねたレクリエーションの工夫に期待したい。

岐阜県 ファミリア小坂グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金はあまり必要がないが自販機で飲み物を購入される方もいる 外出の際など家族の支援で買い物をされることもある		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおられ直接家族と連絡されている 施設の電話を使用したりそれぞれに合わせた対応をしている 年賀状をくださる家族も見えるが、全員に渡すよう担当からも出している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節を感じられるようにレイアウトしている 室温・湿度を管理し心地よく過ごして頂けるよう工夫している 服装でも季節を感じて頂けるようしている 家族の支援で衣類の交換の協力をして頂いている 動線上に転倒に繋がるものを置かないように配慮している	リビングの大きな窓から、明るい陽ざしが入り、外の眺望を楽しみながら、四季の移り変わりが感じられる環境である。食堂は2ユニットで共有し、気の合う利用者同士がテーブルについている。ソファも複数設置され、好きな場所で寛ぐことができる。トイレは1ユニットに3か所ずつあり、利用者も安心であり、介助もしやすい環境となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が近いため居室に戻り自由に過ごすことができる 仲の良い方と談笑されたりゲームなどをして過ごされる方もおられる ソファも自由に使用されている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものや写真などを持ってきていただき飾られている 本人の希望で配置換えなど支援し居心地よく過ごして頂いている 安全には配慮している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行補助用具など活用し安全に移動できるよう支援している 現在は独歩の方も多い 安全に移動できるよう配慮している トイレの案内板は大きな文字にしてある		